



平成21年2月10日

各 位

会 社 名 株式会社グローバルダイニング  
代表者名 代表執行役社長 長谷川 耕造  
(コード番号 7625 東証第二部)  
問合せ先 財務経理責任者 添田 裕一郎  
(TEL. 03 - 5469 - 3223)

### 営業外費用と特別損失の計上及び通期業績予想との差異に関するお知らせ

最近の業績及び為替の動向等を踏まえ、平成20年10月31日の決算発表時に公表いたしました平成20年12月期(平成20年1月1日 ~ 平成20年12月31日)の通期業績予想とに下記のとおり差異が生じたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 当期の業績予想数値との差異(平成20年1月1日 ~ 平成20年12月31日)

##### (1) 連結

|                          | 売 上 高  | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|--------|------|------|-------|----------------|
| 前 回 発 表 予 想<br>(A)       | 16,613 | 338  | 120  | 19    | 2円62銭          |
| 今 回 実 績<br>(B)           | 16,461 | 274  | 105  | 897   | 126円27銭        |
| 増 減 額<br>(B - A)         | 152    | 64   | 225  | 878   |                |
| 増 減 率<br>(%)             | 0.9    | 18.9 |      |       |                |
| (ご参考)<br>前期実績(平成19年12月期) | 16,934 | 473  | 356  | 328   | 46円21銭         |

(金額の単位:百万円)

## (2) 単体

|                          | 売上高    | 営業利益 | 経常利益 | 当期純利益 | 1株当たり<br>当期純利益 |
|--------------------------|--------|------|------|-------|----------------|
| 前回発表予想<br>(A)            | 15,897 | 518  | 527  | 367   | 51円63銭         |
| 今回実績<br>(B)              | 15,843 | 450  | 522  | 1,341 | 188円87銭        |
| 増減額<br>(B - A)           | 54     | 68   | 5    | 974   |                |
| 増減率<br>(%)               | 0.3    | 13.1 | 0.9  |       |                |
| (ご参考)<br>前期実績(平成19年12月期) | 16,080 | 743  | 745  | 32    | 4円62銭          |

(金額の単位：百万円)

### 2. 営業外費用の計上について

連結及び単体の業績につきましては、売上高、営業利益におきまして当初の想定内で推移しました。しかしながら、サブプライムローン問題に端を発した国際的な金融不安により、通期業績予想において使用しておりました想定為替レートである1ドル100.19円に対し、想定を上回る円高へと移行したため、当社の連結子会社であるグローバルダイニング、インク・オブカリフォルニアにおいて、親会社からの円貨借入金にかかる為替差損の増加が生じました。

### 3. 特別損失の計上について

「権八 桜新町」および「権八 ビバリーヒルズ」の2店舗について、収益性の低下により投資額の回収可能性が低いと判断した結果、減損を認識し、減損損失として「権八 桜新町」を運営する単体において82百万円を計上し、「権八 ビバリーヒルズ」を運営する当社の連結子会社であるグローバルダイニング、インク・オブカリフォルニアにおいて4億94百万円を計上しました。

また、当社の連結子会社であるグローバルダイニング、インク・オブカリフォルニアに対する出資について、同社の損益状況及び今後の見通しなどを勘案し、新たに特別損失として関係会社投資損失引当金繰入額8億54百万円を計上いたします。この引当金は、個別財務諸表上の関係会社株式について、連結子会社の財政状態に応じて計上する評価性引当金であり、連結財務諸表においては、同社の財政状態が取り込まれて反映されますので、資本連結手続きに際しては全額消去されることとなります。

### 4. 差異の理由

上記営業外費用と特別損失の計上により、連結の当期経常利益と当期純利益および単体の当期純利益が前回発表時(平成20年10月31日)に公表いたしました通期業績予想を下回りました。

(注)上記の予想は、現時点で入手可能な情報に基づき算出したものであり、実際の業績は今後のさまざまな要因によって、予想と異なる結果となる可能性があります。

以上